

第4回南魚沼市地域公共交通協議会（書面協議） 協議結果

1. 通知発送日

平成30年12月20日

2. 協議方法

- ・ 会議の開催に代えて書面による協議を実施
- ・ 南魚沼市地域公共交通協議会の各委員に対し、書面により協議内容を周知し、回答を依頼

3. 協議事項

1. 地域公共交通確保改善事業に関する事業評価について

4. 協議結果

【回答状況】

委員数：20人（会長を除く）

回答数：20人

委員の過半数の回答があったため協議会開催が成立（協議会規約第9条第2項）

【回答結果】

地域公共交通確保改善事業に関する事業評価について

有効回答数：20人

「承認する」と回答した委員数：20人

出席委員の過半数の承認を得たため（協議会規約第9条第4項）よって、本議案については原案のとおり承認されました。

今回いただいた意見につきましては、また今後の協議会の中で協議していくものといたします。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月8日

協議会名: 南魚沼市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南越後観光バス株式会社	・城内コース(南魚沼市役所～城内～福祉センターしらゆり)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の老人クラブ連合会総会において、市内各老人クラブの単位会長に向けた公共交通についてのPR及びバスの乗り方教室の開催のお願いを行った。(開催希望がなかったため乗り方教室は行わなかった。) ・市民バス事業者全体打合せを30バス年度で4回開催し、寄せられた意見や苦情などについて市と事業者全体で把握し、情報の共有を行った。 ・時刻表の見直しを行い、接続の改善、遅延の解消を図った。 	A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標7,500人に対して6,718人であった。(達成率89.6%) 福祉施設の通所者の減少に伴い、第1便と第4便の南魚沼市役所～ふれ愛支援センターの合計乗車人数が前年の4,474人から3,536人(-20.9%)と減少したことが目標を達成できなかった主な原因と考えられる。なお、福祉施設の通所者の減少以外利用者数は地区によっては大きく増加しているところもあり、地域の足としての役割は定着してきているものと思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや聞き取り調査などで利用者ニーズの把握を行ったうえで、市と事業者が連携しニーズに合わせて改善を行っていく。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を各老人クラブに促し、「自家用車に頼らないおでかけ」の手段としての公共交通をPRする。
南越後観光バス株式会社	・五十沢・大月コース(土沢～五十沢～福祉センターしらゆり)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の老人クラブ連合会総会において、市内各老人クラブの単位会長に向けた公共交通についてのPR及びバスの乗り方教室の開催のお願いを行った。(開催希望がなかったため乗り方教室は行わなかった。) ・市民バス事業者全体打合せを30バス年度で4回開催し、寄せられた意見や苦情などについて市と事業者全体で把握し、情報の共有を行った。 ・時刻表の見直しを行い、接続の改善、遅延の解消を図った。 	A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標4,100人に対して3,923人であった。(達成率95.7%) 福祉センターしらゆり(温浴施設)の降車数が前年の584人から361人(-38.2%)と減少した。 五十沢地区の民間の温泉施設が無料送迎バスを運行しており、乗車人数の集計を取っていないので定かではないが、そちらに移行した人が増えた可能性があると思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停(公民館や集会所)やバス車内への掲示物などで、買い物や通院のために六日町の市街地に行く際に、足として便利に使ってもらえるようなPRを行う。 ・アンケートや聞き取り調査などで利用者ニーズの把握を行ったうえで、市と事業者が連携しニーズに合わせて改善を行っていく。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を各老人クラブに促し、「自家用車に頼らないおでかけ」の手段としての公共交通をPRする。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月8日

協議会名: 南魚沼市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
銀嶺タクシー株式会社	・大巻・泉コース(大巻泉～庄之又～銀嶺タクシー前)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の老人クラブ連合会総会において、市内各老人クラブの単位会長に向けた公共交通についてのPR及びバスの乗り方教室の開催のお願いを行った。 ・老人クラブで乗り方教室を開催し、利用促進を図った。 ・市民バス事業者全体打合せを30バス年度で4回開催し、寄せられた意見や苦情などについて市と事業者全体で把握し、情報の共有を行った。 	A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標2,200人に対して1,962人であった。(達成率89.2%) 昨年度の総乗車人数1,847人に対し今年度は1,962人(+6.2%)と利用者の減少は下げ止まりを見せたが、新規の利用者が増えなかったため目標達成とならなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや聞き取り調査などで利用者ニーズの把握を行ったうえで、市と事業者が連携しニーズに合わせて改善を行っていく。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を各老人クラブに促し、「自家用車に頼らないおでかけ」の手段としての公共交通をPRする。 ・利用したことのない市民にも市民バスを知ってもらうため、掲示物などでPRを行うとともに、運行事業者と市で、利便性を高めるための方策を検討する。
銀嶺タクシー株式会社	・上田・泉田コース(沢口バス停～西泉田公民館～福祉センターしらゆり)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の老人クラブ連合会総会において、市内各老人クラブの単位会長に向けた公共交通についてのPR及びバスの乗り方教室の開催のお願いを行った。(開催希望がなかったため乗り方教室は行わなかった。) ・市民バス事業者全体打合せを30バス年度で4回開催し、寄せられた意見や苦情などについて市と事業者全体で把握し、情報の共有を行った。 	A 計画通り適正に実施された。	A 利用者目標2,400人に対して2,622人であった。(達成率109.3%) 福祉施設の通所者が減少し、路線バスからの乗り継ぎで沢口バス停～まきはたの里の間の第1便を利用する人数が938人から612人(-34.8%)と減少したが、上田地区から乗車し、六日町の市街地(藤島眼科～しらゆり)で降車する人数が875人から1,180人(+34.9%)と増加した。上田地区の買い物や通院の際の足として定着してきたことが達成要因と考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者目標数を達成しており、市民の足として定着してきているものと思われる。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を各老人クラブに促し、「自家用車に頼らないおでかけ」の手段としての公共交通をPRする。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月8日

協議会名: 南魚沼市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社魚沼中央トランスポート	・石打・竹俣コース(五十嵐～塩沢庁舎～南魚沼市役所)	<p>・市の老人クラブ連合会総会において、市内各老人クラブの単位会長に向けた公共交通についてのPR及びバスの乗り方教室の開催のお願いを行った。(開催希望がなかったため乗り方教室は行わなかった。)</p> <p>・市民バス事業者全体打合せを30バス年度で4回開催し、寄せられた意見や苦情などについて市と事業者全体で把握し、情報の共有を行った。</p>	A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標3,300人に対して2,746人であった。(達成率83.2%) 石打地区へのPRが不足しており、新規の利用者を増やすことができなかったため目標達成とならなかった。	<p>・バス停(公民館や集会所)やバス車内への掲示物などで、買い物や通院のために塩沢・六日町の市街地に行く際に、足として便利に使ってもらえるようなPRを行う。</p> <p>・アンケートや聞き取り調査などで利用者ニーズの把握を行ったうえで、市と事業者が連携しニーズに合わせて改善を行っていく。</p> <p>・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を各老人クラブに促し、「自家用車に頼らないおでかけ」の手段としての公共交通をPRする。</p> <p>・停留所位置の見直しなどを検討する。</p>
株式会社魚沼中央トランスポート	・中之島・吉里コース(柄沢来泉寺～塩沢庁舎～南魚沼市役所)	<p>・市の老人クラブ連合会総会において、市内各老人クラブの単位会長に向けた公共交通についてのPR及びバスの乗り方教室の開催のお願いを行った。</p> <p>・老人クラブでバスの乗り方教室を開催し、利用促進を図った。(H30バス年度で2団体)</p> <p>・市民バス事業者全体打合せを30バス年度で4回開催し、寄せられた意見や苦情などについて市と事業者全体で把握し、情報の共有を行った。</p>	A 計画通り適正に実施された。	A 利用者目標2,500人に対して2,696人であった。(達成率107.8%) 利用者数が昨年度と比較して12.6%の増加となった。昨年度の利用者増加も前年度比+5.7%であり、バスの乗り方教室などのPRや、補助ステップの取り付け(H29年度)などで乗りやすさを向上させたことで、市民バスが中之島地区の人たちの足として定着してきていることが達成要因と考えられる。	<p>・乗り方教室を開催した地区をはじめ、ほとんどの停留所での利用者が増加しており、市民の足として定着してきているものと思われる。</p> <p>・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を各老人クラブに促し、「自家用車に頼らないおでかけ」の手段としての公共交通をPRする。</p> <p>・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月8日

協議会名:	南魚沼市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>南魚沼市は、面積584.55Km²で新潟県南部の魚沼盆地に位置する中山間地域であり、豪雪地帯でもある。市の人口は平成7年をピークに減少傾向にありH30年3月末時点で57,252人となっている。</p> <p>市内の幹線を運行する路線バスは、通学、通勤等に利用され、重要な移動手段となっている。また、環境負荷の軽減や交通渋滞の緩和などの役割も果たしている。また、市民バスは、市内の公共交通空白地域の解消及び公共機関・福祉施設や医療機関への移動を目的に運行している。バス事業者は、国県の補助金、市の補助金を受け懸命な努力により路線を維持しているが、自家用車の普及、ますます進む少子化などにより、バスの利用者は年々減少し、市の財政負担は年々増加するなど、地域公共交通を取り巻く環境は厳しさを増してきている。</p> <p>しかしながら、今後は世帯人員減少及び、更なる高齢化進展により、自家用車を運転できない独居高齢者の増加が予想される。</p> <p>フィーダー系統(※)の市民バスは、高齢者や障がいを持った方、学生など、交通手段を持たない方のために、鉄道や地域間幹線系統の路線バスとのアクセスを改善し、誰もが目的地に移動できるようにすることが大きな目標である。</p>